

お客様との信頼を育む 学ぶ社員の向上心

鉄道分岐器部品製造でスタートし、その後、建設機械部品、液晶・I-T部品、橋梁部品などの大型機械部品の切削加工に進出し、その高い機械力と技術力で北陸唯一を自負する株式会社島井。「同業より常に一步先を行く技術経営」を経営方針に平面精度の高い切削加工技術を蓄積、平成二十三年には「知的資産経営報告書」も発表した島井良一代表取締役に、その技術力の源泉とその事業展開をうかがいました。

鉄道分岐器から大型建設機械部品へ 失敗を繰り返しながら独自技術を開発

大型機械加工では県内で唯一と
うかがっています。

島井 私は二代目で、父親が、昭和三十五年に勤めていた鉄工所を辞めて独立し、鉄道分岐器部品の製造百分之百で操業しました。現在も鉄道分岐器部品は三割を占めていますが、第二期新幹線需要が一段落した昭和五十八年頃に特定業種の一社依存からの転換を迫られました。新たな分

野を模索するなかで、これまで培ってきた「切削加工技術」を生かせ、成長が期待できる分野として建設機械に照準を絞りました。しかし、大手建設機械メーカーの下請けとなるのは系列化は避けられません。特定メーカーに依存しないフリーで、かつ、競合他社の少ない大型機械のコンビニエンス工場をめざしました。このスタンスは今もこ

れからも変わりません。

ただ、大型機械の加工は容易ではありませんでした。大きくなければなるほど平面がたわみます。大物でも平面精度が均一になる独自の「均一化加工技術」を確立するまでには、何度も失敗を重ね、試行錯誤を繰り返しました。その過程で、従業員にも「一步の頑張り」が熟成され「納期厳守」のプロ集団が育ちました。以来、関東、関西、中京方面からも順調に受注しています。

設計もせず、営業もしないので経費は少なく、利益は機械につぎ込んできました。機械が機械を呼び、現在は、五面加工機を入れて十三台の大型機械で、毎月三十社くらいのお客さまの製品を加工しています。

二交代制ですか

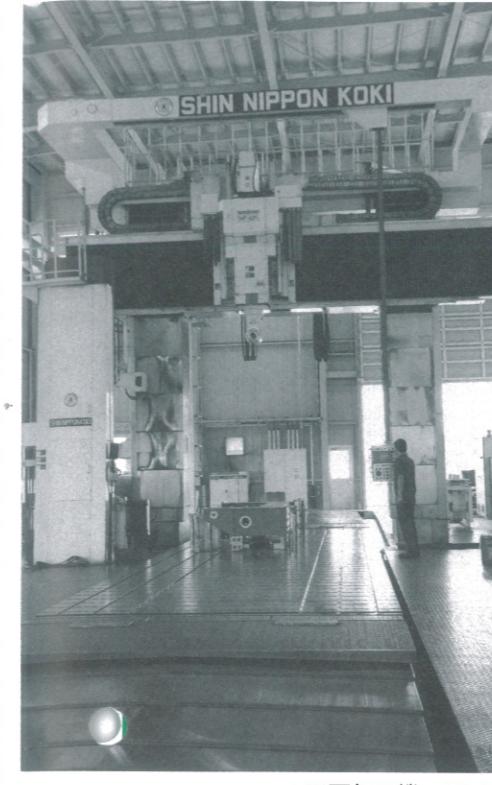
当社は二交代シフトはとつていません。就業は八時二十分から十七時、残業は月四十時間程度です。

目標達成で大入り袋 「いつかは全員でクラウン」の気持ちで

人材育成はどのように

島井 人材には本当に恵まれています。定着率も良く、残業や休日出勤も従業員から申し出でくれます。自分の仕事の納期や管理がわかっているからでしょうか、一人親方のように自分で判

断して機械を動かしています。今いる二十七人の中で、最初からこの分野で技を磨いてきた人は数人しかいません。ほかは、元自転車屋だったとか、お菓子屋、イタリアンのシェフだった人もいます。それぞれその道で



五面加工機 HF-6M



大入り袋

頑張った人たちですから、できることは何でもできるというのが私の感想です。うちにとつての財産は人です。

従業員だけではありません。仕事をくださったお客さまがファンになつてくださり、お客さまを連れてきてくださるんです。今年入った新入社員も、知人に「良い会社だよ」と紹介いただきました。ありがたい話です。

機械が機械をよぶ 今更ながら白線を引きました

安全衛生体制は

島井 切り屑を払う際の切り傷や指をつぶすといった事故が発生しやすいので、原因は極力取り除くよう徹底しています。毎朝と毎週月曜日のミーティングで事例報告するほか、5Sにも力を入れています。また、出勤日の第一・第三土曜日には十六時から十七時までモップ掛けと整理整頓を徹底しています。

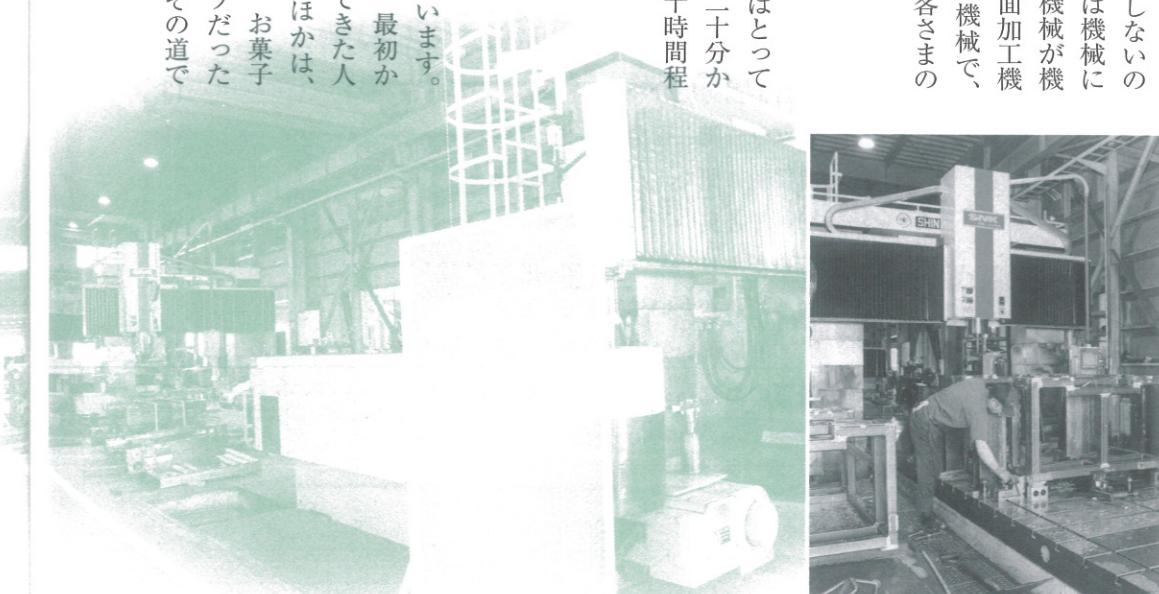
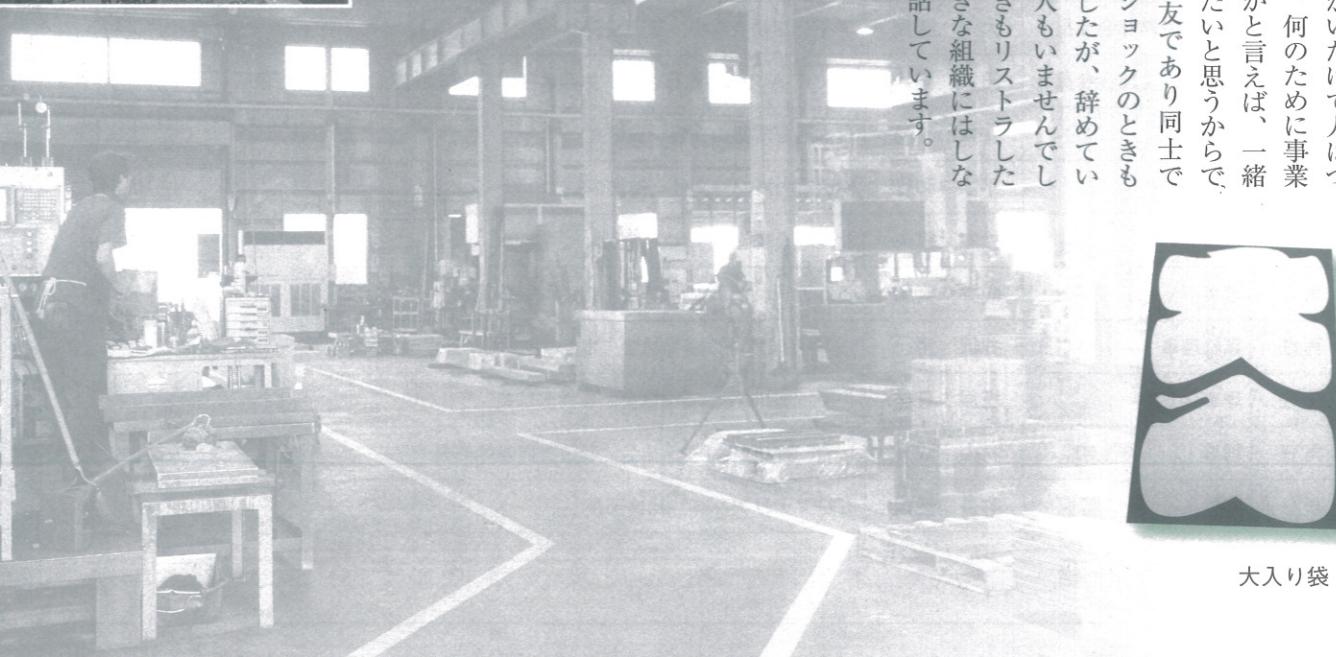
じつは、昭和六十一、二年にボルト盤に女性従業員が腕を巻き込まれる災害が発生しました。完治までに一年以上かかり、その間、会社をたたもうとまで思い詰めました。今でも会社から電話が入ると瞬間脳裏を横



切れます。それ以来、「白線を引ける工場にしたい」と思つてこの工場団地に進出したのです

島井 楽しいだけで人はついてきません。何のために事業をしているのかと言えば、一緒に事業の給料は決して高くはありませんから、みんな仕事の励みになると言つてくれます。これには利益があがるからできることがあります。従業員は友であり同志で、仕事は減りましたが、辞めている従業員は一人もいませんです。リーマンショックのときも仕事は減りましたが、辞めている従業員は一人もいませんでした。苦しいときもリストラしたことないで大きな組織にはしないと、父とも話しています。

みください（笑）。



左：島井 良一さん（代表取締役社長）
右：島井 悟さん（取締役製造部長）

History

昭和35年	高岡市木津にて鉄道分岐器部品製造業として創業	平成2年	新工場、新社屋を現在の岩坪工業団地に竣工し、移転
昭和60年	門型ブランミラーを導入し、大型機械加工に着手	平成28年	木津工場の設備を岩坪第3工場に移設、それとともに本社工場設備も一部移設
平成元年	株式会社島井として法人設立		

じつは、昭和六十一、二年にボルト盤に女性従業員が腕を巻き込まれる災害が発生しました。完治までに一年以上かかり、その間、会社をたたもうとまで思い詰めました。今でも会社から電話が入ると瞬間脳裏を横